

令和 6 年度

岡山県立博物館協議会

第 2 回 開催要項

1 開会

2 展示室視察

3 議題

(1) 令和 6 年度事業について

- ア 展覧会
- イ 教育普及事業
- ウ 入館状況

(2) 令和 7 年度展覧会計画（案）について

- ア 展覧会
- イ 予算

(3) 長期展覧会計画（案）について

(4) その他

4 閉会

日 時：令和 7 年 3 月 21 日（金） 10：00 ～

会 場：岡山県立博物館 講堂

(1) 令和6年度事業について

ア 展覧会

令和7年3月21日現在

☆テーマ展

	1階展示室 (考古・通史・民俗)	2階展示室 (特別展・テーマ展・刀剣・備前焼・工芸)
4/12～5/6 春季展 25(22)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 室戸台風の爪あと	☆赤韋威鎧と備前の名刀 岡山の戦国時代 江戸時代の絵画 備前焼
5/10～6/16 夏季展(1) 38(33)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 室戸台風の爪あと	☆清水宗治VS羽柴秀吉ー備中高松城の戦いー 木喰仏と神像 備前の名刀 備前焼
6/20～7/21 夏季展(2) 32(28)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 暮らしと装い	☆岡山県古代吉備文化財センター開所40周年記念 「吉備から岡山へー最新の発掘調査成果からー」 備前の名刀 備前焼
7/25～9/1 夏季展(3) 39(34)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 船といのり(絵馬と盆行事)	☆絵解きー地獄の世界をのぞいてみようー 刀剣・甲冑 備前焼
9/5～10/13 秋季展(1) 39(34)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 交通ー絵馬に描かれた船ー	☆岡山の至宝ー正宗文庫の輝きー 刀剣 備前焼
10/18～11/24 特別展①・秋季展(2) 38(33)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 民俗芸能と仮面 (備中神楽・面浄瑠璃)	特別展 「緒方洪庵ーその生涯と郷土岡山ー」
11/29～1/26 冬季展(1) 59(48)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 冬の暮らし (昔の暖房)	☆博物館で推し活！ ー学芸員の推しを紹介しますー
1/31～3/16 特別展②・冬季展(2) 45(39)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 雛飾り	特別展 「茶碗 茶の湯にふれる」
3/20～5/6 春季展(1) 48(42)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 旅と行楽(仮)	☆注文打ち～武将のために作られた刀～ 宇喜多秀家と小早川秀秋 屏風

特別展 自己評価シート

展覧会名 特別展「緒方洪庵ーその生涯と郷土岡山ー」		開催期間 令和6年10月18日(金) ～11月24日(日)						
入館者等	合 計	4,720人			収入予算額	1,217千円	実績	795千円
	一 般	2,684人	65歳以上	1,285人	その他	751人	支出予算額	4,944千円
							実績(見込)	4,944千円
展示の趣旨・目的 備中足守(岡山市北区足守)に生まれた医者・学者・教育者緒方洪庵を取り上げ、その生涯と業績を紹介するとともに、岡山とのつながりにも迫る。								
入館者アンケート							満足度	88%
<肯定的> - 郷土の偉人を取り上げた展示であり、その生涯や人となり、功績についてあらためて知ることができた。 - 学芸員の解説やパネルによる説明などが時系列にまとめられて、とてもわかりやすかった。 - 洪庵にまつわるたくさんの貴重な資料が集められており、十分満足できる内容の展示だった。								
<否定的> 文書の展示が多く、読むのに時間がかかった。								
自己評価		全体評価						
教科書にも登場する緒方洪庵を紹介する展覧会として、普段岡山では見られない洪庵自筆の手紙や書などを多数展示した。生涯や業績はもちろん、洪庵の思いや岡山との関わりについても知っていただく機会となった。								
個別評価					工夫・改善点			
①資料調査 調査期間は短かったが、おおよその先行研究を把握していたため、資料の所在場所などを早急に把握できた。各資料所蔵者の好意的協力のもと、借用に向けて事前調査を行った。					調査になるべく時間を費やすべきである。また、貴重な資料を借用するには所蔵者から信頼いただく必要があるため、早期から、こまめに連絡調整を行うことが重要である。			
②資料借用 事前調査で資料の状態確認を確認していたため、おおよそ予定どおり借用することができた。					資料調査時に確認した法量が実際と異なる場合があった。資料の保存箱などを含めて、確実な測定と確認が重要である。また、安全な資料借用には検品・梱包場所の確認も必要である。			
③展 示 事前に資料配置図を作成・共有していたため、スムーズに準備できた。緒方洪庵という人物を知ってもらう上で、貴重な自筆の手紙などを多く展示することができた。					古文書を中心とした展示だったため、古文書が読めない方にも楽しんでもらえる工夫が必要である。今回はキャプションに現代語で大意を示すなどの方法を試みた。			
④返 却 事前の打ち合わせと準備を行い、予定どおり返却を行うことができた。					返却時期が年末・冬にかかったため、天候不順など万一の事態を想定して、予備日などを事前に相談・設定しておくことが重要である。			
⑤図録等作成 図録の作成は初めてだったため、スケジュールや工程の把握が難しかったものの、期日内に完成することができた。					執筆に先立つ文献調査や研究の時間を十分に確保しておくことが重要である。また、誤植が多くなってしまったため、余裕を持った校正スケジュールを組んでおく必要がある。			
⑥関連行事 記念講演会は、研究者と作家の方から洪庵の魅力を多角的に紹介いただいた。また、岡山中央ロータリークラブと連携し、小学生向けの解説を行った。					定員を超える応募があり、申込をお断りすることがあった。一方、当日欠席などで実際の参加者は定員に満たなかった。聞きたい方にできるだけ多く聞いてもらえる工夫が必要である。			
⑦広 報 通常の広報先へのチラシ・ポスター配布やSNSでの投稿のほか、関学会HPへの情報掲示を依頼した。また、FMラジオや新聞、ケーブルテレビなどの取材を受けた。					アンケート等によると、新聞・テレビなどを見て来館した方が多かったようである。来客者数の増には、SNSの更なる活用が必要であり、見せ方や打ち出し方をより工夫することが重要である。			
【その他】 ■報道関係 新聞への掲載回数 26回 ■SNS関係 投稿回数 24回 (X:19回、Facebook:5回)								

特別展 自己評価シート

展覧会名		特別展「茶碗 茶の湯にふれる」					開催期間		令和7年1月31日(金) ～3月16日(日)	
入館者等	合計	14,014人					収入予算額	1,266千円	実績	3,191千円
	一般	8,804人	65歳以上	4,358人	その他	852人	支出予算額	8,211千円	実績(見込)	8,211千円
展示の趣旨・目的 茶の湯において大切に伝えられてきた茶碗を特集した展覧会である。国宝1点、重要文化財9点を含む、全国各地から一堂に会した優品を通じて、最新の知見を取り入れながら茶碗の歴史と魅力を紹介した。										
入館者アンケート								満足度	95%	
<肯定的> ・日本全国の貴重な茶碗が一堂に集まっており、しかも岡山で見ることができるとは夢のようだ。 ・年代ごとに展示されており、茶碗の歴史をわかりやすく説明している。学芸員の解説も非常に良かった。 ・茶碗型のコントローラーを動かし、8Kモニター上で好きな角度から茶碗が鑑賞できる体験型コンテンツがおもしろかった。										
<否定的> ・身長が低いのでもう少し手前に展示してもらえれば茶碗の見込みの部分をしっかり見る事ができたと思う。										
自己評価		全体評価								
会期当初は周知が進まず入館者数があまり伸びなかったが、口コミやSNSを活用した発信により来館者が増え、3月9日には来館者数1万人を達成し、最終的には14000人を超える方にご来館いただいた。図録も内容や大きさに工夫を行ったところ、3回増刷を行わなければならないほど好評だった。										
個別評価							工夫・改善点			
①資料調査 開催が決まる前から調査を続けていたため、開催1年前には、ほぼ調査は完了し、概ね順調に進んだ。							担当者のみで調査を行ったが、緊急時の対策に加え、関係の引き継ぎも考えると、複数での体制も検討する必要がある。			
②資料借用 借用先が多く、日程調整に苦慮した。また、施設搬入口の確認不足などもあり、現地ですでに二転三転したこともあったが、借用先や輸送業者の協力により無事に予定どおり借用した。							費用を確保し、余裕をもって借用にまわれる方法を検討する必要がある。調査時には、搬入経路について十分に確認しておく必要がある。また、積雪の可能性のある時期は避けたほうがよい。			
③展示 事前に計画を立て、概ね順調に進んだが、展示パネル等の設置については計画よりも時間がかかり、学芸課職員および美術品取り扱い作業員から時間外の協力を得て完成した。							費用を確保し、計画にも余裕を持たせる必要がある。展示関連印刷物の作成については、一部の職員に負担を掛ける形になっているため、方法について見直しを進める。			
④返却 年度末ということもあり、撤収作業が1日しかなく、その翌日から長期間に渡り返却を行うことになった。							年度末の開催になると時間的に余裕がなくなり、作業員の確保も難しくなる。この時期の開催はなるべく避けたほうがよい。			
⑤図録等作成 インデザインのデータを入稿したため、校正までは早かったが、校正期間が借用の出張と重なり、時間の余裕はなかった。また、成果物の色が、色校正したときのものとは異なるものになった。新書に近い小さいサイズについては概ね好評であった。							図録は写真が大切であるため、その打ち合わせは綿密に行い、場合によっては、印刷に立ち会って指示を行う必要がある。また、引き続き、美術印刷に強い業者を慎重に選択する必要がある。			
⑥関連行事 体験型デジタルコンテンツは好評であった。座談会は申し込み開始早々、定員以上の申し込みがあり、サテライト会場を設営した。呈茶席が淡交会岡山支部により行われ、好評であった。							体験型デジタルコンテンツにボランティアの協力を求めたが、その位置づけと役割について、今後も検討・改善が必要である。また、座談会と呈茶席の運営についても課題が残り、申込方法の見直しを行う必要がある。			
⑦広報 テレビとラジオで取り上げられる機会は多くなかったが、新聞の広告を見たという人は多かった。著名な美術ライターがSNSで上げたことにより、全国へ周知された。							広報媒体の使い方について検討する必要がある。			
【その他】 ■報道関係 新聞への掲載回数 38回 ■SNS関係 投稿回数 19回 (X:16回、Facebook:3回)										

〈展覧会内容〉

展 示 名	テーマ展「岡山の戦国時代 ―赤松氏から宇喜多氏まで―」		
期 間	令和6年2月29日(木)～4月7日(日)		
趣 旨	戦国時代の岡山では、備前の浦上氏や宇喜多氏、備中の三村氏ら、多くの戦国武将が覇権を争っていた。これまでは、『備前軍記』等の江戸時代の資料を元に語られることが多かったが、近年、文書資料等の発見や、古代吉備文化財センターによる中世城館等総合調査等の様々な成果がある。 本展では、当館が所蔵または寄託を受けている赤松氏と浦上氏・宇喜多氏を中心に関係する資料を展示し、戦国時代を生き抜いていった武将たちについて紹介する。		
主要展示資料	県指定重要文化財 赤松満政寄進状 応永 3(1425)年 市指定重要文化財 宇喜多直家書状 年未詳 中国兵乱記 江戸時代	安養寺蔵(和気町) 西大寺蔵 個人蔵	
関連行事等	学芸員による展示解説 3/2(土)、3/16(土)、4/6(土) きまぐれ講座 3/20(水・祝)、3/24(日)		
備 考	入館料 一般250円、65歳以上120円、高校生以下無料 入館者数 4, 228人		
成果・課題	戦国時代の古文書や江戸時代の軍記物約20点で構成したため、文字が非常に多い展示となった。ただし、できる限り平易な説明や、大きな事件についての補助資料等を置くようにした。次回以降は、関連する武器・武具なども含めて展示を構成するよう心掛けたい。		

事業名	テーマ展「赤韋威鎧と備前の名刀」		
期間	令和6年4月12日(金)～5月6日(日)		
趣旨	国宝「赤韋威鎧」は、平安時代の後半につくられた大鎧で、赤韋威の大鎧は『平家物語』などの合戦絵巻にも描かれ、当時流行していた様子がうかがえる。本品以外に現存するものはなく、大鎧としても現存する中では最古級になり、制作された当初の姿をよく留める貴重な事例として知られている。 本展では、再開館1周年を記念し、館蔵の名刀6口とともに展示する。		
主要展示資料	国宝 赤韋威鎧	岡山県立博物館蔵	
	重要文化財 太刀 銘 則宗	岡山県立博物館蔵	
	重要文化財 太刀 銘 長光	岡山県立博物館蔵	
関連行事等	学芸員による展示解説 4/13(土)、4/27(土)、5/4(土)		
備考	入館料 大人250円、65歳以上120円、高校生以下無料 入館者数 2,890人		
成果・課題	「赤韋威鎧」や「太刀 銘 則宗」をはじめ、岡山県立博物館の代表的な所蔵品を紹介する展示となった。ただし、広報が十分に行き渡らず、入館者の数が他の展示と比べて大幅に多いわけではなかった。今後、どのような形で作品の重要性を伝えていくか考える必要がある。		

事業名	テーマ展「清水宗治 VS 羽柴秀吉 ー備中高松城の戦いー」	
期 間	令和6年5月10日(金)～6月16日(日)	
趣 旨	今から約440年前の天正10(1582)年4月から6月にかけて、備中高松城を巡って、日本の歴史に残る戦いが繰り広げられた。 6月2日に本能寺の変が起こり、その直後に和睦が取り交わされたが、清水宗治とその兄、毛利氏の家臣は切腹をして亡くなった。 本展では、清水宗治と羽柴秀吉に関する資料を中心に展示し、当時の戦いについて紹介する。	
主要展示資料	県指定重要文化財 大太刀 銘 備州長船秀幸 県指定重要文化財 宝福寺寺領検地帳 清水宗治書状 羽柴秀吉掟書	吉備津神社蔵(伝清水宗治奉納) 宝福寺蔵 吉備津神社蔵 龍昌院蔵
関連行事等	学芸員による展示解説 5/18(土)、5/25(土)、6/8(土)、6/15(土) きまぐれ講座 6/1(土)	
備 考	入館料 一般250円、65歳以上120円、高校生以下無料 入館者数 4,080人	
成果・課題	休館前にもニーズがあったテーマであり、加えて6月2日の宗治祭が開かれることから企画した。 吉備津神社本殿再建600年が来年のため、神社サイドも快くお貸しいただくことができた。 展示解説を4回、きまぐれ講座を1回実施した。多くの方に来ていただけたが、関連行事を担当者1名で実施するのは負担が大きく、複数で対応するようにしたい。	

事業名	テーマ展「吉備から岡山へー最新の発掘調査成果からー」	
期 間	令和6年6月20日(木)～7月21日(日)	
趣 旨	岡山県はかつて吉備と呼ばれ、県内には約2万か所の遺跡が残されている。岡山県古代吉備文化財センターは県内における埋蔵文化財を保護・活用するため、この40年間で436か所において発掘調査を実施してきた。 本展では、これまでの発掘調査成果の中から、近年の発掘調査で見つかった出土品を展示し、人々の暮らしやまつり、墓や城などの特徴に迫り、吉備から岡山への移り変わりについて紹介する。	
主要展示資料	県指定重要文化財 銅鐸 勾玉・小玉 市指定重要文化財 単鳳環頭大刀柄頭 陶棺	神明遺跡出土(総社市) 城殿山遺跡出土(浅口市) こうもり塚古墳出土(総社市) 桑山南1号墳出土(津山市)
関連行事等	古代吉備文化財センター職員による展示解説 6/22(土)、7/6(土) ジュニア解説員(県内の中高生)による展示解説 7/13(土)、7/14(日)	
備 考	入館料 一般250円、65歳以上120円、高校生以下無料 入館者数 2,509人	
成果・課題	展示では最新の調査成果を広く公開することができた。古代吉備文化財センターとの連携事業のため、調整や連絡に多くの時間を要した。また、資料点数が多く、展示や搬出なども煩雑になった。そうした課題はあるが、埋蔵文化財調査によって得られた成果を知ってもらいよい機会であり、今後も、こうした展示を行っていきたい。	

事業名	テーマ展「絵解き ―地獄の世界をのぞいてみよう―」
期 間	令和6年7月25日(木)～9月1日(日)
趣 旨	絵解きとは、絵の内容を人々に解説することである。江戸時代には、比丘尼と呼ばれる女性宗教者たちが地獄の様子が描かれた絵画を絵解きし、その恐ろしさや、救われるための方法などを解説した。 本展では、国の重要文化財に指定されている十王図や、観心十界曼荼羅図など絵解きに使われた絵画を中心に、地獄の様子を紹介する。
主要展示資料	重要文化財 十王像 宝福寺蔵 観心十界曼荼羅図 安養寺蔵 冥土の旅絵巻 倉敷市蔵
関連行事等	講演会「あの世を絵解く―天国・地獄・死後の世界―」 8/24(土) 講師 木下 浩氏(岡山民俗学会理事・長島愛生園歴史館学芸員) 学芸員による展示解説 8/3(土)、8/17(土)、8/31(土)(31日は台風による休館のため中止)
備 考	入館料 一般250円、65歳以上120円、高校生以下無料 入館者数 4,496人
成果・課題	会期が夏休みのため、作品解説は子ども向けに平易な日本語で執筆し、ロビーには双六・輪投げ・顔出しパネルなどを設置したところ、その他の展覧会と比べ、子ども連れの来館者が多く、内容もわかりやすいと好評だった。今回は絵画資料を中心に展示したが、立体物がほとんど無かったため、次回以降は彫刻作品も積極的に展示したい。

事業名	テーマ展「岡山の至宝 ―正宗文庫の輝き―」
期 間	令和6年9月5日(木)～10月13日(日)
趣 旨	正宗文庫は、和気郡伊里村(現備前市穂浪)出身の国文学者・歌人であった正宗敦夫(明治14年(1881)生まれ)によって創設され、敦夫が生涯を通して蒐集した7千点・2万冊にも及ぶ貴重な書物等が収められている。 本展では、昨年度に引き続き一般財団法人正宗文庫、人間文化研究機構国文学研究資料館、就実大学人文科学部の協力を得て、正宗文庫が所蔵する資料を通して岡山の歴史と文化を紹介する。
主要展示資料	吉備歌人伝資料 明治30―31(1897―1898)年写 西大寺縁起絵巻 断簡 寛文元(1660)年写 夢二雑文歌稿 昭和5(1930)年写
関連行事等	ミニ講座+ショートギャラリートーク 9/8(日) 専門家と当館学芸員による展示解説 9/14(土)、9/21(土)、9/28(土) 10/5(土)、10/12(土) 関連行事 正宗文庫セミナー 9/7(土)、10/13(日)
備 考	入館料 一般250円、65歳以上120円、高校生以下無料 入館者数 2,515人
成果・課題	昨年度に引き続いて開催した正宗文庫に関する展示で、より魅力的なものになるような工夫を考えた。1つは、キャラクター「あつおさん」「女王」による解説である。リーフレットの説明を、よりわかりやすくかみ砕いて10数カ所に設置した。また、展示室に入ってきた際に、テーマ展の概要や正宗敦夫についてすぐにわかるような会場設営の工夫をした。さらに、毎週1回専門家によるギャラリートークを実施したところリピーター客が増え、昨年度より500人程度入館者も増加した。地元にある未指定文化財の調査及び展示という点においても意義あるものとなった。

事業名	テーマ展「博物館で推し活！ー学芸員の推しを紹介しますー」
期 間	令和6年11月29日(金)～令和7年1月26日(日)
趣 旨	岡山県立博物館には、古代から近世にかけての岡山県内の歴史・文化に関して、6つの分野(歴史、考古、焼物、美術、工芸、民俗)の学芸員が在籍しており、日頃より調査・研究を行い、その成果の一端を、テーマ展や特別展等において公開してきた。 本展では、学芸課職員が一つのフロアに「推し」たい資料を集めて展示し、学芸員の「推し」を通して、岡山の歴史・文化について紹介する。
主要展示資料	重要文化財 則宗 岡山県立博物館 県指定重要文化財 足利尊氏御判御教書 岡山県立博物館 県指定重要文化財 木造阿弥陀如来坐像 和気町安養寺 ハーモニカ箏箏 岡山県立博物館
関連行事等	学芸員による展示解説
備 考	入館料 一般250円、65歳以上120円、高校生以下無料 入館者数 5,472人
成果・課題	学芸課職員一同が調査研究または作業を行った資料や作品を、2階展示室及び2階ホールにて展示した。各分野の特徴が出た展示となった上、展示解説も学芸員2名ずつで行うようにして、それぞれの回ごとに工夫を行い実施した。どのような学芸員が活動しているのかを県民に知らせることはできたと思うが、総花的な展示になってしまい、ポイントを絞って見るのが難しい内容になってしまった。

事業名	テーマ展「注文打ち～武将のために作られた刀～」
期 間	令和7年3月20日(木)～5月6日(日)
趣 旨	「注文打ち」は、主に武将やその家臣の注文に応じて作られた日本刀を指す言葉であり、現代のオーダーメイドに相当する。大量生産品と異なり、より優れた技術や材料をもって一口(ひとふり)ずつ念入りに鍛えられた注文打ちは、武将たちにとっても刀工たちにとっても、特別なものであった。本展では、戦国時代の岡山で長船派の刀工が武将たちのために作り上げた注文打ちを展示するとともに、注文主であった浦上氏や宇喜多氏についても取り上げ、刀鍛冶(かたなかじ)と戦国武将とのつながりを紹介する。
主要展示資料	薙刀 銘 備前国住長船次郎左衛門尉藤原勝光同与三左衛門尉祐定 為宇喜多和泉守三宅朝臣能家作之 永正十八年二月吉日 永正18年(1511) 個人蔵 刀 銘 備前国住長船孫右衛門尉清光作之也 為紀之朝臣宗景作之 永禄五年八月吉日 永禄5年(1562) 岡山県立美術館蔵
関連行事等	学芸員による展示解説 3/22(土)、4/12(土)、5/3(土)【刀剣】 3/29(土)、4/19(土)【戦国】
備 考	入館料 一般250円、65歳以上120円、高校生以下無料 会場 第4展示室

イ 教育普及事業

事業名	ジュニア学芸員講座
期 間	令和6年8月7日(水)～8月8日(木)
概 要 等	県内の中高校生が、実物の文化財の取り扱いや調査など学芸員の基本的な仕事を体験することで、岡山の歴史と文化に関する理解を深めるとともに、将来を考える機会を提供する。 ＜内容＞ 2日間の講義・実務・研修を行い、修了時に館発行の認定証を授与する。 1日目 開講式、施設見学、文化財の取扱い(考古資料・陶磁器)、写真の撮影体験 2日目 文化財の取扱い体験(日本刀、民俗資料)、閉講式
参加者数	中学生 7 名 高校生 19 名 計 26 名
成果・課題	前年度の課題をもとに、生徒達を2グループに分けて同時並行的に体験を行ってもらう方法にしたことで、より多くの中高生に体験を提供することができた。 しかし、日数を二日間としたことで一日の予定が過密になったこと、グループごとに体験場所が異なり移動回数が増えたこと、夏場の室温が上昇する場所(2回ロビー)でも体験を行ったこと等により、生徒達にも疲労の色が見えた。体験後のアンケートでも「一日の体験時間を短くしてほしい」といった意見があり、内容の充実とスケジュール管理の両立が今後の課題となった。

事業名	館内授業・出前授業
期 間	通年(令和6年4月～令和7年3月)
概 要 等	県内の小中高校生等が博物館に来館し、学芸員の解説のもと展示見学や体験活動を行う館内授業と、学芸員が学校に実物資料を持って行き、解説や体験活動を行う出前授業を実施した。 ＜授業テーマ例(学校からの要望に応じて対応)＞ 歴史 特別展「緒方洪庵」の解説 民俗 昔の暮らしと道具のうつりかわり 美術 備前焼を知ろう
実施校数	館内授業 33 校(小16、中3、高10、大4) 出前授業 21 校(小16、中2、特1、大1、その他1)
成果・課題	昨年度と比べて館内授業は同数、出前授業は11校増加した。 出前授業は、昨年度と同様に小学校3学年「昔の暮らし」学習の希望が多く、1月に申込みが集中した。日程が重なった学校2校に対して体験道具の貸出を行い、教員に授業を行っていただく形をとった。なお、出前授業の申込みは岡山市内の学校が多数を占め、地域バランスに偏りがみられる点が課題である。今後は遠方の学校への広報や、体験道具の貸出を増やすなどして、様々な学校のニーズに対応した利用方法を提案していく必要がある。

事業名	博物館講座
期 間	令和6年6月9日(日)、16日(日)、23日(日)、30日(日)
概 要 等	第一線で活躍する研究者と当館学芸員による連続講座を実施。(生涯学習大学連携講座) 4日間4講座(1講座90分)、定員120名 第1回 「新発見の木喰仏と県内の神像」 講師：岡崎有紀(学芸員) 第2回 「中国山地の農耕習俗について」 講師：松井今日子(学芸員) 第3回 「ミュージアムにおける茶道具の展示について」 講師：横山 梓(東京国立博物館 主任研究員) 第4回 「描かれた武器・武具 ―酒吞童子討伐に挑む源頼光と尻鞆の関係を中心に―」 講師：馬野琴巳(学芸員)
受講者数	85 名
成果・課題	受講者数が昨年度より約30名増加した。昨年度に引き続いての開催であること、開館して1年が経過して博物館の活動が昨年に比して知られるようになったこと、受講料を無料化したことなどがその要因と考えられる。しかしながら、定員には及ばない状況である。より積極的に広報を行うとともに、受講者に満足して継続的に参加していただけるように各学芸員が自らの研究を深めて魅力ある講座を行う必要がある。

事業名	中学校職場体験
期 間	令和6年11月6日(水)、7日(木)、8日(金)
概 要 等	中学2年生を対象にした職場体験の受け入れ <内容> 学芸業務や受付・看視等の仕事を体験
実 績	受入校 6 校 参加生徒 11 名
成果・課題	本年度は受入校を最大6校(各校2名まで)に限定したうえで実施し、資料整理や受付・看視の業務、館内の環境整備など、日常的な業務を体験してもらうこととした。 学芸員や研究者に興味・関心のある生徒がいる一方、博物館についてほとんど知らない生徒達も多く参加することから、体験を通じて博物館や文化財のことを学び、知ることのできるプログラムを継続的に考え、提供していく必要がある。

事業名	博物館実習
期 間	令和6年8月21日(水)～25日(日) *博物館見学実習は通年(令和6年4月～令和7年3月)
概 要 等	博物館法に規定する学芸員資格の習得を希望する大学生を対象に、博物館において実習の機会を提供し、人材育成に資するとともに博物館活動の普及を図る。 <内容> ①博物館実習 講義実習(3日間) 各分野の文化財の取り扱いを通してその特性を学ぶ 支援実習(2日間) 博物館の行事を体験して実務を学ぶ ②博物館見学実習(1日) 博物館施設の見学
実 績	参加者 博物館実習14名 博物館見学実習4校110名
成果・課題	県内の大学に通学する学生と県内出身の学芸員志望者を受け入れている。学芸員育成は博物館の大切な役割であり、実習経験者が学芸員として就職するなど成果も上がっているため、継続していく必要がある。

事業名	教員のための博物館の日 in 岡山県立博物館 2024
期 間	令和6年8月2日(金)
概 要 等	県内の教員を対象に、授業に利用できる資料の紹介や、展示室の案内、さらには博物館を利用した授業づくりについて紹介することにより、学校教育における社会教育施設の活用促進を図る。 <内容> ・館内を巡り、授業に利用可能な資料を紹介 ・博物館を利用した授業の事例を紹介 ・授業づくりの相談 など
実 績	参加者 24 名
成果・課題	今年度、はじめて実施をした。募集は、HP 及びメールでの県内市町村教委及び私立学校への周知のみであったが、想定よりも多くの教職員が参加した。 休館前は、岡山大学教育学部や山陽学園大学と共に、教員免許更新講習を行っており、その経験を踏まえて活動内容を考えて実施したため、特段困ったことはなかった。ただし、今後、学習指導要領が改訂されることから、その内容にあわせたものへのアップデートが必要である。

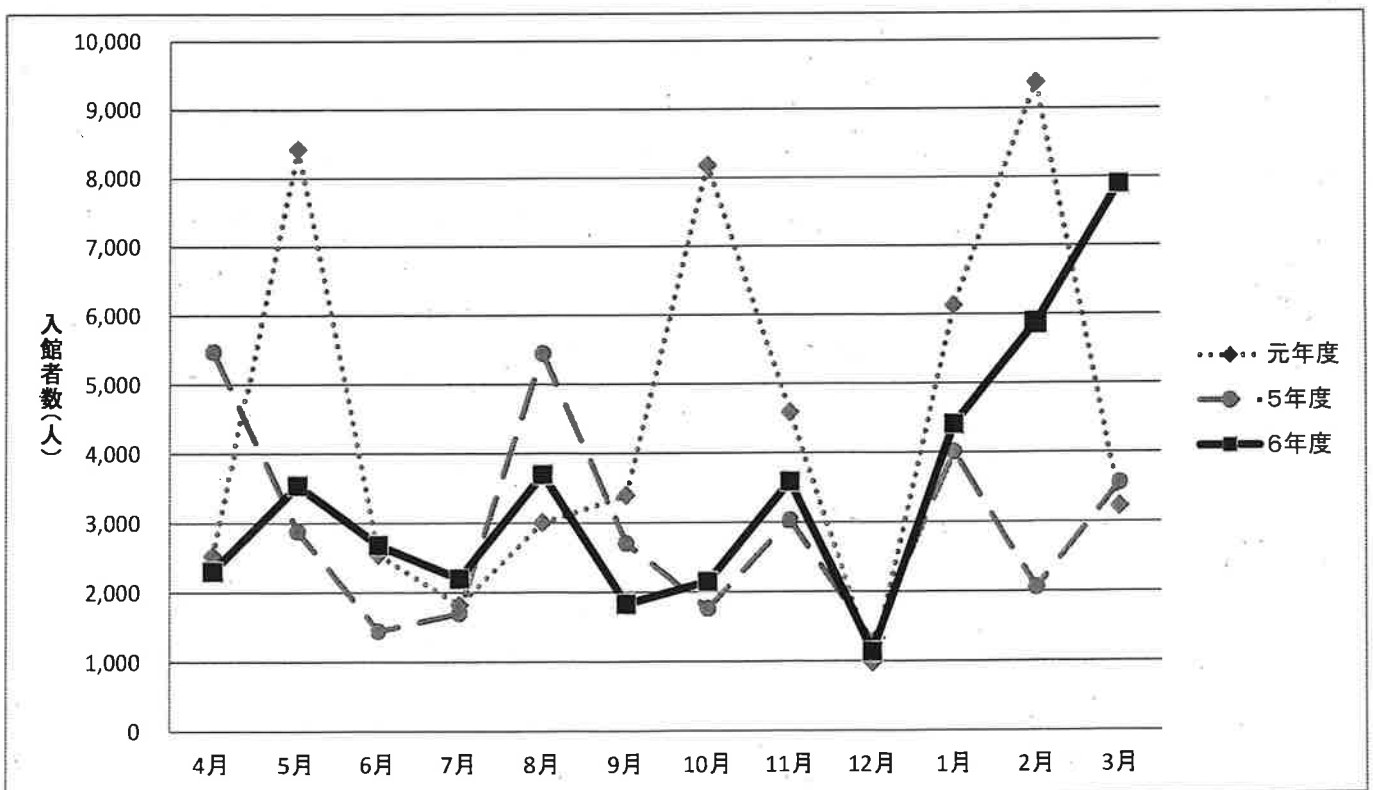
ウ 入館状況

月別入館者数

令和7年3月16日現在

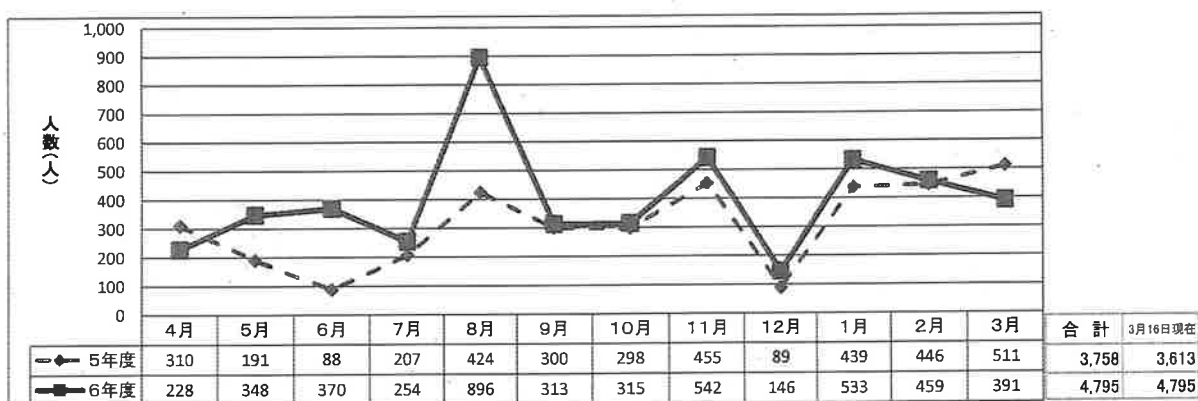
(単位:人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	3/16現在
元年度	特別展	-	-	-	-	-	-	7,399	3,330	-	-	8,008	3,226	21,963	20,462
	特別展以外	2,533	8,419	2,544	1,816	3,002	3,396	779	1,260	984	6,129	1,367	-	32,229	32,229
	計	2,533	8,419	2,544	1,816	3,002	3,396	8,178	4,590	984	6,129	9,375	3,226	54,192	52,691
5年度	特別展	-	-	-	553	5,449	1,441	1,008	3,034	426	-	-	-	11,911	11,911
	特別展以外	5,478	2,883	1,447	1,149	-	1,264	757	-	866	4,009	2,060	3,567	23,480	22,392
	計	5,478	2,883	1,447	1,702	5,449	2,705	1,765	3,034	1,292	4,009	2,060	3,567	35,391	34,303
6年度	特別展	-	-	-	-	-	-	1,291	3,429	-	237	5,878	7,899	18,734	18,734
	特別展以外	2,306	3,541	2,681	2,197	3,696	1,833	860	159	1,141	4,172	-	-	22,586	22,586
	計	2,306	3,541	2,681	2,197	3,696	1,833	2,151	3,588	1,141	4,409	5,878	7,899	41,320	41,320

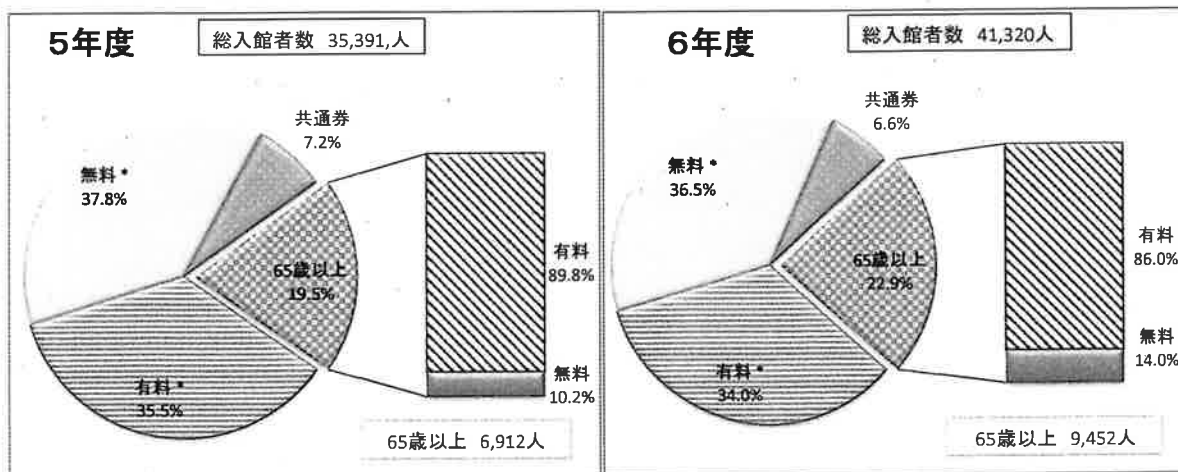


展覧会名		入館者数実績		入館者の割合		
				一般	65歳以上	高校生以下
テーマ展	岡山の戦国時代ー赤松氏から宇喜多氏までー		624人	57.2%	23.2%	19.6%
	赤韋威鎧と備前の名刀		2,890人	70.0%	22.4%	7.6%
	清水宗治VS羽柴秀吉ー備中高松城の戦いー		4,080人	64.8%	22.5%	12.6%
	吉備から岡山へー最新の発掘調査成果からー		2,509人	64.3%	27.7%	8.0%
	絵解きー地獄の世界をのぞいてみようー		4,496人	65.8%	10.4%	23.8%
	岡山の至宝ー正宗文庫の輝きー		2,515人	68.4%	16.4%	15.2%
	博物館で推し活！ー学芸員の推しを紹介しますー		5,472人	78.0%	9.5%	12.5%
特別展	緒方洪庵ーその生涯と郷土岡山ー		4,720人	56.9%	27.2%	15.9%
	茶碗 茶の湯にふれる		14,014人	62.8%	31.1%	6.1%
計			41,320人	65.5%	22.9%	11.6%

高校生以下の入館状況



入館者別割合《令和6年度は3月16日現在の数値》



注：有料* 無料* は、65歳未満の入館者をいう。

(2) 令和7年度展覧会計画(案)について

ア 展覧会

令和7年3月21日現在

	1階展示室 (考古・通史・民俗)	2階展示室 (テーマ展・刀剣・備前焼・工芸)
3/20～5/6 春季展(1) 48(42)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 旅と行楽	テーマ展 「注文打ち～武将のために作られた刀～」 宇喜多秀家と小早川秀秋 屏風
5/10～6/29 初夏展 51(44)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 暮らしと装い	テーマ展「江戸時代の人々(仮)」 刀剣 備前焼
7/3～8/24 夏季展 52(45)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 盆行事	テーマ展「備前焼(仮)」 刀剣
8/28～10/5 秋季展(1) 38(33)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 絵馬 ※刀剣	テーマ展「吉備津神社(仮)」 刀剣 備前焼
10/10～11/23 特別展①・秋季展(2) 45(39)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 民俗芸能と仮面	特別展 「花ござ 一心おどる い草の世界ー」
11/29～1/12 特別展②・冬季展(1) 46(38)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 冬の暮らし	特別展 「岡山の文化と出会う ー宗教美術から超絶技巧までⅠー」
1/17～3/8 特別展②・冬季展(2) 50(43)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 雛飾り	特別展 「岡山の文化と出会う ー宗教美術から超絶技巧までⅡー」
3/13～ 春季展 19～(16～)日	古代吉備の世界 幕末維新までの岡山の歴史 旅と行楽	テーマ展「美術」(仮) 刀剣 備前焼

〈特別展内容〉

事業名	特別展「花ござ一心踊る い草の世界ー」(仮)
期 間	令和7年10月10日(金)～11月23日(日)
趣 旨	岡山県南部では、江戸時代から昭和時代後半にかけ、い草の栽培と畳表の生産が盛んであった。明治期にい草を鮮やかに染めて緻密に織り込み、ペルシャ絨毯のような美しい仕上がりに加工する技術が岡山の磯崎眠亀によって発明されると、岡山産の「花ござ」は欧米の万国博覧会でたびたび受賞し、国の重要輸出品の一つへと成長した。 令和7年に日本で万国博覧会が開催されることにちなみ、本展では岡山がかつて世界に誇った産物である「花ござ」を取り上げ、歴史、デザインや製作技術の変遷、い草栽培で活気づいた県南部の当時の様相などを紹介する。また日本のい草にまつわる歴史資料や他県の花ござをあわせて展示し、岡山県の産地としての特徴を明らかにする。
主要展示資料	・法隆寺龍鬘簪(複製) 奈良時代(現代) 広島県立歴史博物館 ・備中早島畳表売買通用手形並びに版木 江戸時代 早島町指定重要文化財 個人蔵 ・鋸歯紋輪郭継紋様錦莞簾(コロンブス世界博覧会授賞) 明治時代 岡山県立博物館 ・捺染花簪 近代 倉敷市教育委員会 ・芹沢銈介図案集 昭和時代 個人蔵
関連行事等	(1) 記念講演会 (2) 学芸員による展示解説(大人向け・子ども向けをそれぞれ開催予定) (3) ワークショップ(コースター作りなど) (4) 織機の実演会(手織り機、自動織機)
備 考	入館料 一般460円、65歳以上230円、高校生以下無料 会場 第3・4展示室

事業名	特別展「岡山の文化と出会うー宗教美術から超絶技巧までー」
期 間	令和7年11月28日(金)～令和8年3月8日(日) *Ⅰ期・Ⅱ期に分けて展示する予定
趣 旨	令和7年に岡山県立博物館は、設立懇談会結成(昭和41年2月)から60年、また開館から55年目を迎える。当館は、岡山の歴史と文化を伝える施設として、これまでに県内ゆかりの資料を幅広く収集してきた。資料を大切に保管することと同時に、広く人々に知っていただき、後世に遺していくのも博物館の重要な役割の一つである。そこで、開館55年目、さらには岡山カルチャーゾーン40周年を記念して代表的な資料を一堂に公開する。 第1弾として、美術工芸分野を紹介する。美術分野では、成熟した宗教文化の様相を示す仏画・仏像や工芸品、そして四条派や文人画を中心に岡山の近世絵画を展観する。工芸分野では、備前の誇る名刀や、岡山ゆかりの甲冑、そして近代に活躍した正阿弥勝義などの作品を紹介する。
主要展示資料	・岡山県指定重要文化財 阿弥陀如来坐像 鎌倉時代 館蔵 ・重要文化財 両界曼荼羅図 鎌倉時代 寶光寺蔵 ・重要文化財 太刀 銘 則宗 鎌倉時代初期 館蔵 ・重要文化財 色々威甲冑 室町時代 豊原北島神社蔵 ・重要文化財 木造獅子 平安時代 高野神社蔵 ・山水図 岡本豊彦筆 江戸時代 館蔵 ・鶏香炉 正阿弥勝義 明治20年代 館蔵
関連行事等	(1) 記念講演会 (2) 学芸員による展示解説 (3) アンケート企画 ーみんなでつくろう 県立博物館の優品グッズー (4) 館蔵品クイズ!
備 考	入館料 一般460円、65歳以上230円、高校生以下無料 会場 第3・4展示室

イ 予 算

令和 7 年 度 予 算

【 歳 入 】

(単位：千円)

財 源 内 訳	7 年 度	6 年 度	増 減	備 考
使用料及び手数料	4,645	4,107	538	入館料、講堂使用料
諸 収 入	3,173	3,358	▲ 185	電気代私費負担分
一 般 財 源	89,326	88,161	1,165	
合 計	97,144	95,626	1,518	

【 歳 出 】

(単位：千円)

項 目 名	7 年 度	6 年 度	増 減	備 考
① 展覧会事業	14,903	18,600	▲ 3,697	特別展開催経費の減
＜内訳＞				
・ テーマ展(5回)、平常展	4,867	5,445	▲ 578	
・ 特 別 展(2回)	10,036	13,155	▲ 3,119	
② 教育普及事業	200	200	0	
＜内訳＞				
・ 博物館講座	200	200	0	
③ 資料購入費(修繕費)	285	285	0	
④ 資料保存地域支援活動	213	213	0	
⑤ 博物館協議会	295	295	0	
⑥ 広報強化・館内環境整備	4,411		4,411	デジタルサイネージ設置 2階ホール整備等
⑦ 維持管理費	76,837	76,033	804	人件費の増
合 計	97,144	95,626	1,518	

(3) 長期展覧会計画(案)について

年 度		特 別 展	
6	2024	緒方洪庵 ―その生涯と郷土岡山―	茶碗 茶の湯にふれる
7	2025	花ござ ―心おどる い草の世界―	岡山の文化と出会う ―宗教美術から超絶技巧まで―
8	2026	岡山の文化と出会う ―岡山県立博物館の収蔵品を中心に (歴史・民俗編)― (仮)	調整中

岡山県立博物館協議会委員

任期2年（令和7年2月5日～令和9年2月4日）

令和7年2月5日現在

番号	氏名	区分	現職	就任年月	備考
1	仲原 美代子	学校教育関係者	備前市立日生西小学校長	R 7. 2	新任
2	忠政 勇之	"	美作市立美作中学校長	R 4. 5	
3	辻田 詔子	"	県立総社南高等学校長	R 5. 2	
4	栗原 宏之	社会教育関係者	岡山県生涯学習センター所長	R 5. 4	
5	明楽 香織	"	NPO法人らたん職員	R 5. 2	
6	美咲 美佐子	家庭教育関係者	NPO法人岡山市子どもセンター代表理事	H31. 2	
7	青山 昌史	学識経験者	公益社団法人 おかやま観光コンベンション協会 事務局長	R 7. 2	新任
8	岡野 英美	"	NPO法人 ENNOVA OKAYAMA 正会員	H29. 2	
9	富山 明寿	"	小倉産業（株）代表取締役社長	R 7. 2	新任
10	大久保 範子	"	岡山大学大学院社会文化科学研究科 准教授	R 7. 2	新任
11	三田 智子	"	就実大学人文科学部総合歴史学科 准教授	H31. 2	
12	伊勢崎 晃一郎	"	日本工芸会中国支部陶芸部会委員	H31. 2	
13	内田 章文	"	RSK山陽放送（株）取締役 総務局長	R 3. 2	
14	岡田 智美	"	（株）山陽新聞社編集局文化部長	R 5. 2	
15	鳥井 良輔	"	岡山県議会議員	H27. 6	

岡山県立博物館協議会条例

〔昭和46年6月25日〕
岡山県条例第47号

(設置)

第1条 岡山県立博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関として、岡山県立博物館に岡山県立博物館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

(委員の任命の基準)

第2条 協議会の委員（以下「委員」という。）は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから、教育委員会が任命する。

(委員の定数)

第3条 委員の定数は、20人以内とする。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(その他)

第5条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営について必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、昭和46年7月1日から施行する。

2 (略)

岡山県立博物館協議会運営規則

〔昭和46年7月1日〕
岡山県教育委員会規則第13号

(趣旨)

第1条 この規則は、岡山県立博物館協議会条例（昭和46年岡山県条例第47号）第5条の規定に基づき、岡山県立博物館協議会（以下「協議会」という。）の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(議長及び副議長)

第2条 協議会の会議（以下「会議」という。）に、議長及び副議長を置く。

2 議長及び副議長は、岡山県立博物館協議会の委員（以下「委員」という。）の互選により定める。

3 議長及び副議長の任期は、委員としての在任期間とする。

4 議長は、会議を主宰する。議長に事故のあるときは、副議長がその職務を代行する。

(招集)

第3条 会議は、岡山県立博物館長が招集する。

2 会議の招集は、会議開催の場所、日時及び会議に付すべき案件をあらかじめ各委員に通知して行なう。ただし、緊急の場合は、この限りでない。

(定足数及び表決)

第4条 会議は、委員の過半数以上が出席しなければ開くことができない。

2 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(職員の説明及び資料の提出)

第5条 委員は、会議において関係職員に対して、説明又は資料の提出を求めることができる。

(職員の出席)

第6条 関係職員は、会議に出席して意見を述べるができる。

(その他)

第7条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は協議会が別に定める。

附 則

(施行期日)

この規則は、公布の日から施行する。

職 員 一 覧

教育委員会事務局

職 名	氏 名	備 考
文 化 財 課 長	浜 原 浩 司	

岡山県立博物館職員

職 名	氏 名	備 考
館 長	細 川 誠	
副 館 長	内 池 英 樹	(学芸課長事務取扱)
総 務 課	課 長 間 野 良 一	
	副 参 事 國 定 優 次	
	主 任 上 岡 義 貴	
	主 事 荊 木 淳	
学 芸 課	学芸員 (副参事) 重 根 弘 和	
	学 芸 員 岡 崎 有 紀	
	学 芸 員 松 井 今 日 子	
	学 芸 員 平 田 良 行	
	学 芸 員 馬 野 琴 巳	
	主 事 宇 垣 匡 雅	